

令和 3 年度

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや 1F

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 0390100022 | | |
| 法人名 | 岩手県高齢者福祉生活協同組合 | | |
| 事業所名 | 岩手高齢協 ほっともとみや 1F | | |
| 所在地 | 〒020-0866 盛岡市本宮六丁目14番地12号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年1月18日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年9月2日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者さん・スタッフが元気で楽しい毎日を過ごす事が出来る。 ・たくさんの方々のご協力により感染者を出さずにとまず乗り越えられたし、コロナ禍ではあったが、利用者さんの外出希望を叶える事ができた。 ・ご家族のご協力により、外泊や外出でお正月をご自宅で過ごされた方がいた。 ・利用者さん・ご家族・医療などと連携し看取りを行う事ができた。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡市の盛南開発エリアに位置し、周辺には病院や大型ショッピングセンター、美術館、公園などがあり、生活環境に恵まれている開設16年目の事業所である。職員は、理念「和・笑・輪を大切に毎日笑いのある楽しい生活を目指します」を理解し、利用者一人ひとりの個性に応じたケアの提供に努力されている。開所時から、重度化や終末期の対応を整備し、かかりつけ医や訪問看護師と連携し看取りを実施している。利用者・家族の希望に応え、複数の訪問診療医、訪問歯科医、訪問薬剤師、訪問看護師の導入等、健康管理の仕組みが構築されている。町内会に加入し、コロナ禍で地域との交流は限られているが、災害時の協力も約されており、開かれた事業所として一層期待される事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 | | |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年4月7日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 個々の悩みや苦しみに対して解決はしなくても、寄り添い落ち着くまでまっている。理念を共有し毎日笑いのあるその人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。 | 開所時に、全職員で話し合いし作成した理念「和・笑・輪・・・共に喜び、共に悲しみ、共に助け合い・・・」を念頭に置き、利用者一人一人に寄り添いながら、その人らしい暮らしができるよう実践に繋げている。 | 職員一人一人が理念を意識して携わっており、利用者の喜怒哀楽を引き出し、苦しみや悲しみに真摯にむきあう質の高いケアを継続されている。今後も職員一体となり、この取り組みを継続されることを期待します。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナにより交流はむずかしかったが近所への挨拶や気に掛けて下さる方等から声をかけていただいたりしている。 | 町内会に加入し、事業所の会報紙を地域に配布してもらい、情報発信を行なっている。「なんでも相談室」を掲げ、見学や入居申し込み時に、介護以外の事柄の相談も受け、地域に繋げるパイプ役を担っている。近隣の方々と挨拶を交わすなど、日常的に交流できている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議などで情報交換している。グループホームとは？と質問される事が多くそれに対して答えている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナで施設内で会議を行わず公民館をお借りし行っている。 | 運営推進会議の委員は、市の担当課、地区の区長、民生児童委員、利用者の家族で構成され、過去には利用者も参加している。会議では、利用者の状況にも意見、質問がなされ、必要が生じた時には区長が市に掛け合うなど、サービスの向上に寄与している。コロナ禍で、地区公民館で会議を開催することで、公民館利用者からの事業所への理解が得られていると感じている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村と連携し困難事例(家族からの虐待)の相談をした。運営推進会議に参加して頂いている。メールで情報を頂いている。 | 運営推進会議に、市の担当課職員が参加しており、助言を頂いている。要介護認定申請や生活保護受給、成年後見制度利用等、行政担当者と連携して行なっている。困難事例について、入居前から市と相談し進めるなど、市との協力関係は構築されている。 | |

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや 1F

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に身体拘束廃止のための会議を行い拘束をしない取り組みをしている。 | 身体拘束廃止委員会は全職員で構成され、年4回開催している。身体への拘束は、認知症の進行にも関わることから行なっていない。スピーチロックについては、日々のミーティングやカンファレンスで話し合い、常に意識しながらケアを実践している。転倒防止や安全のため、家族の承認を得て赤外線センサー(2階で3名)を使用している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている | 3か月に一度身体拘束 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人を利用している方が3人いらっしゃる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 説明し、納得していただいた上で入居して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍ではあったが、玄関先で面会している。外出も支援を行っている。運営推進会議で報告している。 | 利用者とは、日々の関わりの中で何気ない言葉を聞き取り、ケアに活かしている。家族からは、運営推進会議や面会時、介護計作成時に、要望を聞いている。家族の面会は、感染防止対策をし玄関先で行なっている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 理事会、本部ミーティング、各事業所ミーティングなどを利用し | 職員からは、日々のミーティングや毎月の会議で意見や要望を聞いている。全職員が一同に会することが困難なことから、グループラインを設定し、連絡事項の周知を図っている。職員不足との意見から、契約社員の採用に結びつけたり、勤務時間についても、職員と話し合いを重ね、現状の勤務時間となっている。 | |

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや 1F

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格習得等でスキルアップした職員もおり少しではあるが昇給している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修できなかったのでリモートや施設に来てもらい研修した。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 本部にて管理者向けや各事業所対象のリモート研修を行っている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前には訪問し本人の希望に添った対応をしている。安心して生活できるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の困っている事、心配な事等聞き入れここでできる限りの事は対応している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族と話し合い、歯科往診、訪問マッサージを利用している方がいる。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除洗濯たたみ等出来る事を一緒に行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 外出や外泊など、家族に協力を得て行っている。家族が居ない方は友人等をお願いしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 美容院、交友関係など施設に入っても自由に行っている。電話も自由に使用できる。携帯電話を自由に使っている方もいる。 | 感染予防対策を徹底し、馴染みの美容院に友人と出掛けたり、生け花教室に通うなど自由に外出している。携帯電話の使用、新聞の購読など、利用者の意向に沿った支援をしている。1階と2階や居室同士の交流があり、入居以来の馴染みになっている。利用者同士声掛けし、独り語の利用者に「先輩静かに」などと話している声が聞える。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 談話などで楽しまれている。利用者同士が声掛け合いお互いを気遣う様子も見られる。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 通りすがりも声をかけてくださったり、訪問される方もいた。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | それぞれの方が、その時の思いや希望に添えるようにしている。うまく表現できない方については、表情等で対応している。 | 利用者一人一人に合った声掛けをし、本音を引き出し、叶えられることは前向きに取り組んでいる。言葉での表現が難しい利用者には、動作や表情から判断している。把握した情報は、記録に記すと共に、申し送り時に職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | これまでの生活を続けている方がいる。訪問マッサージを継続している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | チャートや申し送りで本人の状況を把握している。 | | |

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや 1F

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスにてモニタリングを行い計画を作成している。サプリやジュース等を差し入れしてくれたり、生け花教室に通っている方もいる。 | 介護計画は、簡素化した「もとみや様式(私の思いや希望)」で作成している。見直しは3か月毎としているが、状況が変わることもあり、3か月に限らず、計画を見直している。利用者や家族の意見、医師や看護師の助言を加えて計画を作成し、利用者や家族に説明している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | チャート、申し送りノート等利用しながら変化等に対応し共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 受診時家族が対応できない時にはスタッフが同行している。友人と外出したり、ひとりでタクシーを利用し出掛ける方もいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | スーパーやホームセンターに買い物に出掛けたり、訪問美容、出張寿司屋、民謡ショー、体操レクなど楽しみの支援をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は家族に対応していただいている。以前からのかかりつけ医とは継続している。体調により受診が不可能な方については、ご家族や医師と相談の上治療が受けられるよう支援している。 | かかりつけ医の受診は家族対応になっており、差し支えない場合は職員が代行している。利用者の過半数は、訪問診療(複数の医療機関)を利用している。訪問看護師が日々の健康状態を観察し、早い段階での受診に繋げている。開設時から薬剤師と契約し、薬の管理を委託している。訪問歯科診療も利用し、適切な医療が受けられている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護を契約し、週1回の検診してもらい、医療との連携をしている。 | | |

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや 1F

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院は長引かないよう早めに退院できるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族、医療と連携し状態が変化した毎に話し合いをもち、看取り等につなげている。 | 入居時に利用者と家族に対し、今後どのようにしたいのか意向を確認している(入居時は元気なので、看取りについては、明確ではない)。看取りについて指針を策定し、かかりつけ医、訪問看護師と連携し実施している。看取りを実施した家族からは、誠意ある対応を感謝されている。 | 事業所では、看取りに対応した職員に、ねぎらいの言葉をかけるなど、精神的負担の把握と支援を行なっている。看取りに不安な職員に、実際の経過をかかりつけ医の看護師に直接指導いただき、適切な対応を行なっていると評価され、不安が払拭された経緯があり、きめ細かく職員を支援している。今後も、職員のスキルを高めるとともに、利用者、家族の意向に寄り添い、充実したケアの提供を続けていかれることを期待します。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 今年度はコロナのため講習は受けていないが把握している。訪問看護へ連絡し、指示をもらったりしている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災、地震、水害など定期的に訓練を行っている。今年度はコロナのため、スプリンクラーや自動通報装置の訓練とシェイクアウト訓練は行なった。 | コロナ禍で、消防署立会いの避難訓練は出来ないでいる。今年度は、市のシェイクアウト訓練に参加している。所内で、スプリンクラーや自動通報装置の取り扱いについて研修している。火災、地震、水害についてミニ訓練は定期的に行っている。避難訓練時には大家、区長、地域の方々に協力を頂く等、協力体制は築けている。 | 火災や地震、水害等、各災害ごとの避難マニュアルの見直しの検討に加え、夜間や冬期など、時間や季節に合わせた訓練の実施を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ひとりひとりの個性に合わせた言葉かけに注意している。 | プライバシーを尊重し、一人一人を理解して利用者に応じた対応を心がけている。不安な様子が見られた時には言葉かけをし、寄り添いながら安心して頂けるような柔軟な対応をしている。居室に入室の際にはノックをし、フロアにいる場合でも「お部屋に入っていいですか」と了解を得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 不安にならないように全てに関して声掛けはするが、自己決定してもらっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 自分のペースで生活しておられる。起床から、日中、夜間などそれぞれが希望通り生活している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で決定できる方は自由に。決定できない方についてはこちらが決めている。定期的な訪問理美容。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜も多く、バランスの良い食事の提供をしている。茶碗拭き、テーブル拭き、下膳等行っている。 | 職員が、日常の会話などから利用者の好みを把握し、1週間分の献立を作成している(1階と2階同じ)。各階毎に職員が調理し、利用者と一緒に食事している。誕生日には、利用者の好きなものでお祝いをしている。敬老会にはお弁当、忘年会にはお寿司を提供し好評である。ハンバーガーや福田パンを供したこともある。利用者はテーブル拭き、下膳、茶碗拭き等、出来ることを手伝っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量チェックをしている。水分摂取が難しい方については声掛けをしたり、チェック表を利用している方もいる。 | | |

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや 1F

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを実施し、定期的に訪問歯科を利用し劇的に口腔内がきれいになっている方がいる。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 寝たきりの方以外はトイレを使用している。チェック表を利用しあまり失敗しないよう支援している。 | 排泄チェック表を活用し、トイレに誘導している。カンファレンス等で、一人一人の排泄機能に合わせて自立に向けてのケアの検討をしている。殆どの利用者はトイレを使用している。臥床が主の利用者も、時には便座に座ってもらうなど、機能維持の支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ヨーグルト、牛乳など取り入れている。水分摂取量のチェック、排便チェックを利用し個々に合ったリズムで対応している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 拒否があった場合は無理せず時間をおいたり、翌日にしたりと嫌な思いにならないようにしている。 | 何時でも入浴できるよう毎日浴室の準備をしており、利用者は週2~3回入浴している。入浴を嫌がる利用者には無理をせず、翌日に入浴するなどの対応をしている。異性介助にこだわる利用者には、職員交替するなど同性介助に配慮している。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯にし楽しみを持って入浴できている。臥床の利用者も、浴室でシャワー浴を実施している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜眠りたくない人がいるが、それなりに対応している。個々の状態により昼寝をすすめる時もある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 誤薬がないよう、何度も確認し服薬していただいている。かるがも薬局、ツルハ薬局、おはよー薬局と連携し対応している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 買い物、ドライブ、生け花教室、外出外泊など楽しみな時間を作ってもらっている。 | | |

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや 1F

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブ、コロナ禍でも友人と出掛けたり、外泊したりしている。 | 感染予防対策を徹底し、天気の良い日は、散歩や2、3人でのミニドライブ、紫波の案山子祭り見物(職員が出品)、雫石の松ぼっくりにソフトを食べに出かけている。利用者の中には、友達と出かけたり、正月に自宅に泊まったり、関係者の協力を頂きながら希望が叶えられるよう、外出を多く企画実践している。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 1名の方については自己管理して頂いている。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している | 自由に出来る。田上も自由。携帯電話を使用している方もいる。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室、リビング、ソファー、スタッフルーム等に過ごされている。花を飾ったり、描画の展示。 | 所内の温度調節、採光、湿度に配慮すると共に、季節の花や水木団子、五月人形を飾ったり、職員と一緒に作成した折り紙を飾り、季節感が感じ取れるように配慮している。ホールには、今年の干支のトラを飾っている。食卓や椅子、ソファーが置かれ、日中は殆どの利用者が集い自由に過ごしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室で絵を描いたり、リビングで過ごしたり、ソファーで本を読んだりと思い思いに過ごされている。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビ、タンス、冷蔵庫の持ち込みをされている。自由にベッドやタンスの配置換えをしている方もいる。 | 居室にはクローゼット、ベッド、暖房器具が備え付けられている。利用者は使い慣れたタンスやテレビを持ち込み、家族写真、遺影、花や好きなポスターを飾り、自分で居心地よく過ごせるように工夫している。中には、自由に配置換えをしている利用者もいるという。 | | |

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 岩手高齢協 ほっともとみや 1F

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 見やすい所に大きめのカレンダーを置いたり、各居室には表札があり、自分の居室だと理解してもらっている。歩き易いようにあまり物を置かないようにしている。 | | |